

慶應SDM開設10年記念公開講座

入場無料

400年以上の歴史を守り続けている老酒舗の経営と継続の本質を学ぶ

「不易流行」に基づく、 老舗のビジネスモデル

定員200名
事前登録制

定員になり次第、受付を終了いたします

《ゲストスピーカー》

株式会社 豊島屋本店
代表取締役社長

吉村 俊之 氏



モデレータ：
SDM研究所
顧問 吉田篤生

2018年4月13日(金)

19:00～20:30 (18:30開場)

慶應義塾大学日吉キャンパス 独立館DB201教室

ゲスト：吉村 俊之 氏

＜プロフィール＞

1959年(昭和34年)生まれ。1985年(昭和60年)京都大学大学院理学研究科物理学教室修士課程修了。同年(株)日立製作所入社。同社中央研究所にて、半導体集積回路極微細加工プロセス及び先端デバイスの基礎研究、並びに開発に従事。スタンフォード大学ビジネススクール上級管理者課程修了。京都大学工学博士。米国戦略系経営コンサルティング会社を経て、2001年(平成13年)(株)豊島屋本店入社。2006年(平成18年)より現職。2014年11月に、システムデザイン・マネジメント研究科経営・財務戦略論(吉田篤生特別招聘教授担当)にて講義。現在に至る。

＜講演概要＞

慶長元年(1596年)神田鎌倉河岸で創業した、東京最古の酒舗豊島屋本店第16代当主吉村俊之社長の講義から、420年以上の歴史を守り続けている老舗の経営と継続の本質を探ってみる。

「山なれば富士、白酒なれば豊島屋」と詠われた江戸の名物“白酒”をはじめとして、酒造りの伝統を守りながら様々な危機を乗り越え、現在に至っている。明治神宮、神田明神の唯一の御神酒である「金婚」の他、多くの賞を受賞している。企業を取り巻く様々なステークホルダーとの関係を大切に、行動規範の「不易流行」に基づき、「守るべきもの」と「変わるべきもの」のバランスを保ちながら継続してきている。佐伯泰英の「鎌倉河岸捕物控シリーズ」は、NHKでもドラマ化されたが、豊島屋が舞台となっている。本講義では、過去ー現在ー未来の時間軸の中で、企業が存在し続ける意義について語って頂く。



SDM
System Design and Management

お申し込み：慶應SDMホームページよりご登録ください。

※申し込み多数の場合は抽選といたします。当選者のe-mailアドレスに参加票をお送りしますので、アドレスの入力間違いにご注意ください。

お問い合わせ先：慶應義塾大学日吉学生部 大学院担当
Phone：045-564-2518